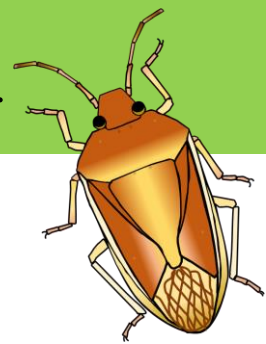
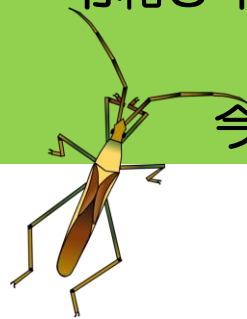


今後の斑点米カメムシ類の防除対策について



1 概況

- (1) 呉市の予察灯（8月第1半旬）におけるクモヘリカメムシ（写真1）の累積誘殺数は4頭（平年2.4頭）となっており、平年よりも多くなっています（図1）。
- (2) 早期品種及び早期栽培稲におけるすくい取り調査では、その他加害種の発生が多いほ場が見られます（表1）。要防除ほ場率は41.6%で、過去の注意報発表年並の水準です（表2）。
- (3) 南部地帯で加害力の高いイネカメムシ（写真2）発生の多いほ場が見られ、今後の増殖により被害（写真3）の発生が予想されます。
- (4) 北部地帯のいままでイネカメムシが確認されていなかった地域で、発生が見られています。
- (5) 中部地帯・北部地帯で加害力の高いクモヘリカメムシの発生が多いほ場が見られ、今後の増殖により被害の発生が予想されます。
- (6) 中国地方1か月予報では、気温は高く、降水量少ない見込みのため、増殖に好適です。

2 防除対策

- (1) 斑点米カメムシ類による斑点米被害（写真4）を防ぐため、出穂後の防除を徹底しましょう。防除後も密度が下がらない場合は、追加防除を検討しましょう。
- (2) 近年、被害が拡大しているイネカメムシについては、出穂前の水田に侵入し、不稔症状を発生させることが確認されています。多発地域では出穂始めに防除しましょう。
- (3) 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになるため出穂2週間前までに除草を終え、出穂期が近くなってからの除草は行わないようにしましょう。
- (4) 要防除水準：表3のとおり
- (5) 防除時期：（カスミカメ類・イネカメムシ）出穂期～その10日後に1～2回。
（その他加害種）出穂7日後～14日後に1～2回。
- (6) 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」を参照してください。
- (7) 薬剤散布については、農薬使用基準（使用量、希釈倍数、使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底しましょう。
- (8) なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」の「農薬登録情報提供システム（<https://pesticide.maff.go.jp/>）」を参照してください。



写真1 クモヘリカメムシ
(体長 15~17mm)



写真2 イネカメムシ
(体長 12~13mm)



写真3 イネカメムシによる基部被害粒



写真4 上段:カスカメムシ類による被害粒(黒蝕米)
下段:クモヘリカメムシ等その他加害種による被害粒(標準的斑点米)

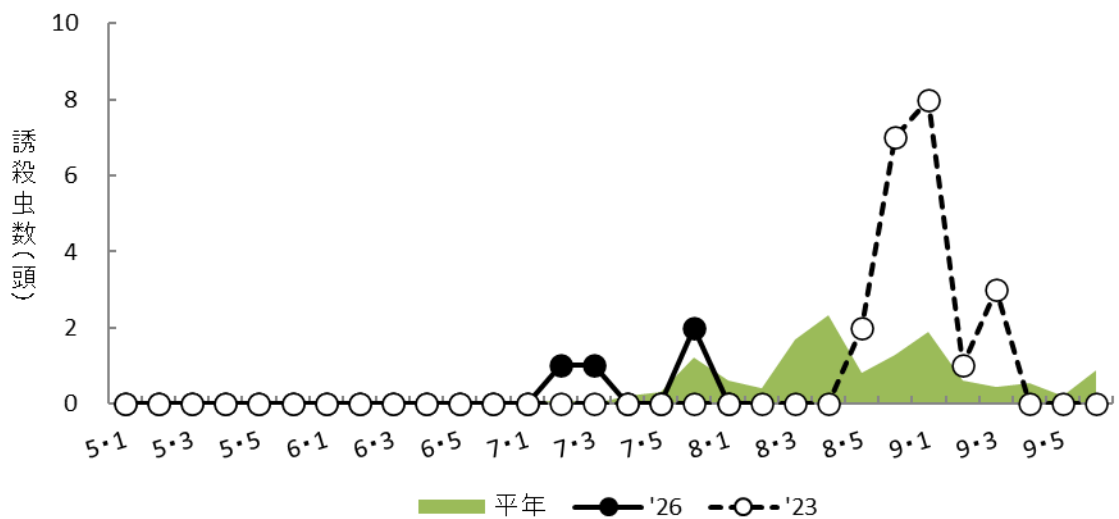


図1 予察灯（呉市）におけるクモヘリカメムシの誘殺状況（頭）

表1 令和8年度 本田すくい取り調査(8月下旬)

地帯	区分	令和8年	過去3年平均
南部平均値	カスミカメ類	0.8	2.7
	その他加害種	4.7	6.9
中東部平均値	カスミカメ類	1.2	4.5
	その他加害種	2.6	1.9
中西部平均値	カスミカメ類	0.7	4.7
	その他加害種	0.6	2.8
北部平均値	カスミカメ類	1.3	5.5
	その他加害種	1.5	0.3
県全域平均値	カスミカメ類	1.1	3.1
	その他加害種	1.7	2.8

表2 要防除ほ場率の過去注意報年との比較（県内全域）（単位：頭／20 回すくい取り）

	R8年	R7年	R6年	H23年	H17年	H16年	H14年	H13年
カスミカメム類	1.1	3.0	5.0	6.4	3.8	4.9	2.6	4.1
その他加害種	1.7	1.3	5.4	1.6	2.4	6.5	2.4	2.7
要防除ほ場率(%)	41.9	37.2	54.7	53.4	48.4	51.1	35.6	44.6

表3 本田乳熟期におけるカメムシ類の発生量と斑点米の関係

項目	着色粒混入率	要防除密度の目安	
		カスミカメムシ類	その他加害種
2等以下への格下げ	0.1%以下	4頭以上	2頭以上

お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151
東広島市八本松町原6869
TEL：082-420-9662（直通）



ひろしま病害虫情報

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>)

ひろしま病害虫情報

検索

